

令和2（2020）年度 F F J 環境調査について

日本学校農業クラブ連盟
環境調査評価委員会

1 令和2年度の環境調査について

(1) 調査テーマと調査対象種

“タンポポ調査”～第2弾～「在来種を探そう」

○調査対象種：【在来種】シロバナタンポポ、黄花系在来種（※）

【外来種】セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、在来種と外来種の雑種

※今回の調査では黄花系在来種の細かな区別は行わず、全て「カントウタンポポ」とカウントします

(2) 目的

環境調査の主旨とこれまでの歩みを尊重し、調査初代のテーマであるタンポポの調査に再度取り組むことで、平成12（2000）年から今日までの間にどれほど外来種・在来種の分布や環境が変化してきたかを探求することが本調査の最大の目的です。そのため、令和2年度も継続してタンポポの分布調査をテーマとし、全国の分布図を完成させることを目標とします。

また、本調査は全国49連盟・約8万3千人の農業クラブ員一人ひとりが主体的に楽しみながら取り組める活動です。身近な植物であるタンポポにも多くの種類があることを知り、在来種・外来種（雑種を含む）の特性や見分け方などに関する学びを通して生き物や生物多様性への関心が高まり、科学性や環境問題について考える力などが育まれることが期待されています。

(3) 調査期間： 令和2（2020）年2月7日（金） から 8月5日（水）

《注》在来種の開花時期は一般的に3～5月であることから、調査の実施が6月以降に集中することはできるだけ避け、5月中までの調査実施についても積極的にお願いいたします。

(4) 日連提出期限： 令和2年11月13日（金）必着

(5) 基本方針

- ①タンポポの全国分布図の完成を目標とする。
- ②外来種であるセイヨウタンポポとそれらの雑種がほぼ全国的に広まっていることが推測されており、在来種および外来種（雑種含む）と判断できるものが全国でどれだけ発見できるかを確認する。
- ③正確に種別の判断をしてもらえるよう、わかりやすい種類の見分け方について周知徹底を図る。
- ④過去の調査データと比較検証し、在来種および外来種（雑種を含む）の分布の推移を確認する。
- ⑤分布状況の集計や表示に関しては、環境省の運営する「いきものログ」を活用する。

(6) 具体的な調査・集計方法について（概要）

- ①各種必要書類を日連HPからダウンロードし、各単位クラブおよび都道府県連盟において令和2年2月7日（金）から利用してください。
- ②「Geocode Viewer」（<http://www.geosense.co.jp/map/tool/geoconverter.php>）を用い、発見された場所の3次メッシュコードを求めて、「個人調査票2020」、「環境調査集計表2020」に記入してください。
- ③各都道府県連盟事務局は、各単位クラブの集計結果をまとめ、電子メール添付または電子記録媒体（CD-R等）に保存し、上記の提出期限までに日連事務局へご提出ください。
- ④詳細は、日連HPからダウンロード出来る「令和2（2020）年度 環境調査の手引き」をご参照ください。